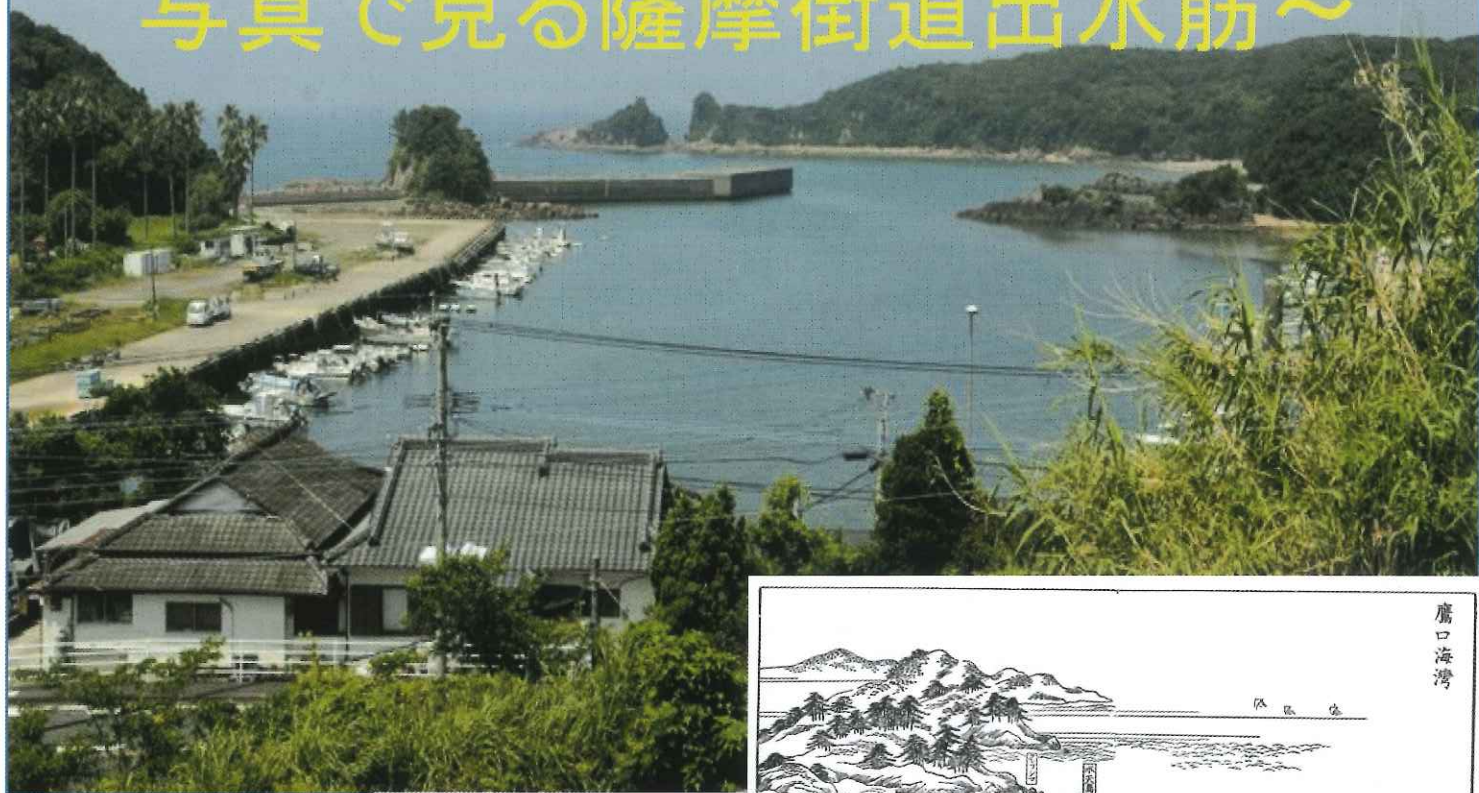
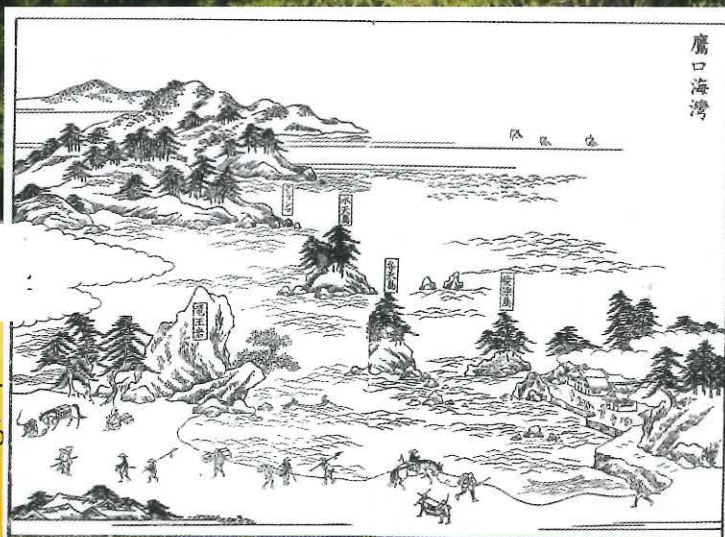


参勤の道

～『三国名勝図会』と 写真で見る薩摩街道出水筋～



上: 現在の高ノ口漁港【阿久根市】
右: 『三国名勝図会』に描かれた
鷹口海湾(現在の高ノ口)



開催にあたって

江戸時代、出水は薩摩藩では北辺の要衝の地としての役割を果たしていましたが、同時に薩摩に出入りする人々にとっては、玄関口としての存在でもありました。

当時、薩摩から藩外に出る道筋は、西側から「高岡筋」「大口筋」そして「出水筋」という三つのルートが定められていましたが、中でも「出水筋」は藩主の参勤交替や一般の旅人たちが頻繁に通行した「筋」として知られていました。

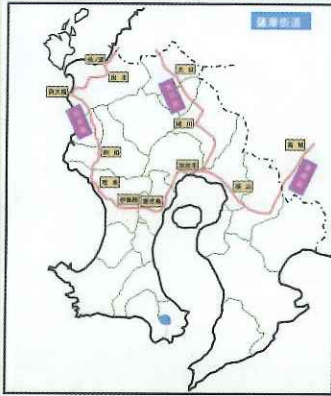
今回の特別展では、この薩摩街道「出水筋」に焦点を当て、当時描かれた絵図等によってその道筋を再確認するとともに、旅人が眺めたであろう「出水筋」沿いに残される数々の史跡を写真によって紹介いたします。

このたびの特別展を通して、交通機関のなかった時代に、旅人たちがどのような道筋を歩いたのか、また難儀な道中、一時の癒やしともなった各地の史跡に目を向ける機会となれば幸いです。

- 会期: 平成28年7月24日(日)～8月31日(水)
〔休館日: 8月15日(月)〕
- 会場: 出水歴史民俗資料館(中央図書館2階)
- 入館時間: 9:00～18:00(平日)
9:00～17:00(土日祝)
- 入館料: 無料

- 主な展示資料: 出水筋想定経路略地図
三国名勝図会(複製)
正保国絵図(写真)
元禄国絵図(写真)
「薩陽往返記事 附属画帳」(複製)
出水に係わる参勤交替一覧表

三本の薩摩街道



鹿児島では、江戸時代になり全国的に交通網が整備される中で、小倉筋(出水筋と大口筋)・東目筋(高岡筋)の三筋を主要街道として定め、整備を行った。

基本的な道筋は、現在の国道三号線、国道二六八号線、国道十号線にほぼ沿っている。

参勤交代等では、陸路の主要街道のほか、海路が使われることもあった。

薩摩街道を代表する出水筋



「出水筋」は当初「小倉筋」と称されたが、安永2年に「出水筋」の名称を用いることと定められた。

鹿児島城を起点とし、小倉までのうち、熊本境の「境橋」までを「出水筋」といった。

苗代川(東市来)、向田(川内)、阿久根、出水が主な宿泊地であり、その他旅人の便宜を図るために茶屋等の休憩所が整備された。

一方、海路をとる場合は、川内川河口、脇本、米ノ津などの港から出帆する。

木場茶屋の地名の元となった、木場原の茶屋跡



「出水筋」を歩く

河川にかけられた橋

「出水筋」を横切る河川は多い。多くの場合、渡河の利便性に配慮し、簡易な板橋や土橋が架けられた。国境、出水の「境橋」は明治になって架設された石橋で、当時は板橋であったという。

しかし、鹿児島城下の「西田橋」や伊集院の「永平橋」、串木野金山近くの「北口屋橋」など、肥後系の石橋築造技術が生かされた本格的なアーチ橋が架けられていた。



「境橋」【出水市】



「北口屋橋」
【いちき串木野市金山】

徒渡り、舟渡りの河川

防禦の理由から、あるいは大河川の場合、技能的な理由から架橋が行われないこともあった。その代表的な河川が薩摩川内の「川内川」である。

「川内川」ではその両岸に、「渡唐口」「渡瀬口」と呼ばれる渡河場を設け、藩主などは「御座船」を利用した。



「渡唐口」【薩摩川内市】



「御座船」
【薩摩川内市歴史民俗資料館
展示品】

「出水筋を通った人々」

「出水筋」を彩った旅人の代表格は、藩主等による参勤交替の行列であったらう。

参勤交替は、当初の頃は鹿児島城を出発した後、福山を経て日向の細島から海路を取る「日向路」が多く、次いで川内川河口から海路をとる「西海路」が多かった。

しかし、冬季に鹿児島を出発するため、海路は時化ることが多く、また「出水筋」の整備が進んだこともあって、次第に出水筋から陸路を進む「九州路」が主流となった。

出水に立ち寄った参勤交替

参勤交替で出水に立ち寄った回数

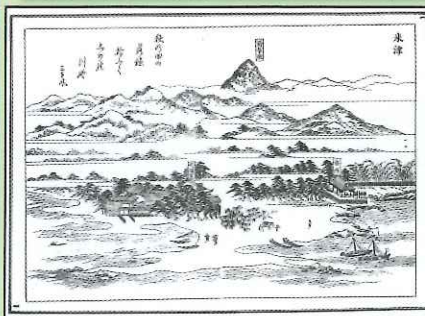
藩主	統治期間	出水立ち寄り	
		参勤	下国
初代 家久	21	0(5)	0(5)
二代 光久	48	0(28)	0(29)
	綱久	0(8)	0(8)
三代 綱貴	17	1(17)	3(17)
四代 吉貴	17	8(13)	8(12)
五代 継豊	25	6(8)	6(9)
六代 宗信	3	1(2)	3(3)
七代 重年	6	2(3)	2(2)
八代 重豪	32	12(15)	15(15)
九代 斉宣	22	1(10)	0(10)
十代 斉興	42	2(17)	1(18)
十一代 斉彬	7	3(4)	4(5)
十二代 忠義		1(2)	0(1)
	久光	1(1)	1(1)

※ ()内は、すべての参勤交替回数

参勤交替の記録は、行程が詳細に残されているとは限らない。藩主によっては出発・到着日の記録だけの場合もある。

この集計表では、確実に出水の立ち寄った記録があるもの、九州路を利用していることから、立ち寄りが推定できるものを計上した。

記録された「出水筋 三国名勝図会」



米ノ津天満宮や津口番所、矢筈岳が描かれた「米ノ津」(複製)

『三国名勝図会』は、天保14年(1843)に作成された。

藩内の橋、道、神社、寺、名所等を集成したもので、特徴的な事柄については絵が添えられる。

幕末の藩内の様相を窺える貴重な資料とされている。